

770名の科学技術に関する顕著な成果をたたえる 令和7年度「科学技術分野の文科大臣表彰」表彰式

文部科学省は4月15日、令和7年度「科学技術分野の文科大臣表彰」表彰式を文科省3階講堂で挙行了。

同表彰は、科学技術に携わる者の意欲向上を図り、日本の科学技術の水準の向上に寄与することを目的として、科学技術に関する研究開発、理解増進等において顕著な成果を取った者を表彰するもの。今年度は科学技術賞の開発部門に22件(79名)、研究部門に52件(69名)、科学技術振興部門に7件(22名)、技術部門に3件(3名)、理解増進部門に9件(29名)、若手科学者賞に99名、研

究支援賞に10件(19名)、創意工夫労働者賞に450名が選出された。

表彰式では、野中厚文部科学副大臣が登壇し、「科学技術は人類の知的好奇心に立脚する営みであり、社会課題解決や経済成長の原動力の源泉だ。本日の受賞を励みとし、皆さまが我が国の科学技術・イノベーションの発展のために引き続き活躍されることを期待している」と阿部俊子文科大臣からの挨拶を代読した。その後、各部門(創意工夫労働者賞を除く)の代表者へ表彰状が授与された。最後に、受賞者を代表して東洋アルミニウ



野中副大臣から表彰状を受け取る若手科学者賞代表の鈴木氏(東北大学流体科学研究所准教授)



代表挨拶する関口氏
挨拶する野中副大臣
ム(柳群馬製造所生産技術チーム嘱託の関口伸氏)が受賞の喜びと感謝を述べ、「今後は、若い技術者、研究者がさらに高いレベルの科学技術の発展に向けてチャレンジできるような産官学が一体となつて環境を整備し、優秀な人材を育てていくことが重要となる。私の育成、技術の伝承に努め、世界の平和と繁栄、技術の発展に寄与していく」と今後の決意を語った。

25年度科学技術関係予算

政府全体で5兆526億円

政府はこのほど、科学技術関係の2025年度当初予算総額が前年度比19.62億円増の5兆526億円になったと発表した。

「科学技術関係予算」は、科学技術振興費のほか、国立大学の運営費交付金・私学助成等のうち科学技術関係、科学技術を用いた新たな事業化の取り組み、新技術の実社会での実証試験、既存技術の実社会での普及促進の取り組み等に必要な経費を指す。内閣府が科学技術関係予算に該当する事業を各府省庁と調整・抽出し集計した。

省庁別では文部科学省が最も多く2兆584億円。次いで、経済産業省9990億円、防衛省4933億円、国土交通省4551億円などとなっている。政府は第6期「科学技術・イノベーション基本計画」(2021)

25年度)において、政府の研究開発投資目標を5年間で30兆円としているが、現時点で40.5兆円となり、目標額を達成した。

一方で、ここ数年、当初予算に比べ、補正予算の割合が高くなっている。科学技術関係の2024年度補正予算は2兆9831億円で、24年度科技関係予算全体(8兆4110億円)の約3割を占めた。

4月11日の閣議後会見で、城内実科学技術政策担当大臣は「科学技術分野において補正予算は、イノベーションを通じた社会課題の解決等に向けて迅速かつ機動的な対応を可能とする重要な予算だと考えている。他方で、毎年度の当初予算を確保することは当然重要だ。これまでも着実に増額してきたところ。今後も、当初予算と補正予算を適切に組み合わせ、必要な額をしっかりと確保し、科学技術・イノベーション政策の充実を図ってまいりたい」と述べた。